

岡安 誠子

島根県立大学看護学部 講師

特別養護老人ホーム施設職員における家族支援の実際—支援内容構造化の試み

本研究は、特別養護老人ホーム職員の家族支援に対する意識と実践から、ツール開発のため支援の構造化を試みることを目的とした。家族支援に関する 27 項目を含む質問紙を作成し、看護師・介護士・生活相談員 1500 名を対象に調査を行った。結果、回収数 313 (回収率 20.9%)、有効回答数 212 (有効回答数 14.1%) であった。対象者は、看護師 55 名 (21.0%)、介護士 65 名 (24.8%)、生活相談員 92 名 (35.1%) であった。意識および実践について、職種別の 27 項目平均得点で比較した結果、実践において生活相談員に比べ介護士の得点平均が有意に低かった。27 項目の因子分析で「家族としての役割遂行」「家族の休息と安心の保障」等、家族支援の 6 因子が抽出された。この結果を基に高次因子分析モデルを作成したが、モデル適合度に課題が残った。今後は、特養家族支援 27 項目の余剰項目や潜在因子を検討する。